

2011 年

9 月 17 日（土曜日） 真心の風が運んでくれた素晴らしいご縁 - 成美大学「風のチャペル」プロジェクト -

本日、福知山にある成美大学の戸祭学長のご発案で『「風のチャペル」プロジェクト』として、東日本大震災で結婚式を挙げられなかった被災地の中から気仙沼市と陸前高田市のカップル 3 組が、この企画に全面協力を申し出られた京丹後市のセントラーレホテル京丹後の「風のチャペル」に招かれ、ご家族・ご親族の皆さんとともに結婚式を温かい雰囲気の中で盛大に挙げられました。

3 組のカップルの、気仙沼市の石川さん御夫婦、小野寺さんご夫婦、陸前高田市の近江さんご夫婦には、心からお祝いとお慶びを申し上げます。

また、この企画を実行いただきました、成美大学の戸祭学長さん、プロジェクト代表の福田さんはじめ 16 人の学生の皆さん、セントラーレホテル京丹後の石田社長さんはじめ関係者の皆さん、ドキュメンタリー制作の日本大学の皆さん、全ての関係者の皆さんに、本市としても深く敬意を申し上げます。

まず、大震災から半年が経過してもなお大勢の被災者の皆さんが想像を絶する困難に直面されており、改めて心から哀悼の誠とお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を念願するばかりです。

さて、3 組のカップルの皆さんには、日頃は京丹後市にはなじみも薄いことかと思いますが、実は、気仙沼市、陸前高田市の両市と京丹後市とはそれぞれ浅からぬご縁をいただいております。本市の琴引浜は、気仙沼市の十八鳴浜（くぐなりはま）、九九鳴き浜（くくなきはま）、御伊勢浜（おいせはま）、小泉海岸、陸前高田市の高田松原とともに、日本のなぎさ百選、白砂青松百選に選ばれており、中でも、十八鳴浜、九九鳴き浜は、全国わずか 17 自治体からなる「全国鳴き砂ネットワークの会」の盟友であり、本市と深いつながりを持っています。また、本市の琴引浜の所在する地元区の皆さんは、この夏、広く被災地の中から気仙沼市、陸前高田市を訪問し、義援金や高田松原再生にと松の苗を渡されたり、海岸漂流物の撤去のお手伝いをしておられ、両市と本市は太平洋、日本海と地理的には離れていますが、美しく豊かな海岸の絆、地域と人との固い絆で結ばれています。

今日は、このような絆を背景に、成美大学やセントラーレホテル京丹後はじめ大勢の関係者の皆さんの温かい真心が風を起こし、風のチャペルと共鳴し、厳しい御環境の中の一方で、素晴らしい慶びへのご縁を運んでいただいたのだと思います。

私も、陸前高田市の戸羽市長さんとは全国青年市長会の仲間同士で 2 回ほど同市に行く機会をいただいていますし、気仙沼市の菅原市長さんとは鳴き砂ネットワークの仲間同士であります。陸前高田の高田松原は被災後、一本松が踏ん張り立っています。松原

の再生に向けて、一本松の保全とともに高田松原の子孫の松の苗木づくりも始まっているとお聞きします。また、気仙沼の十八鳴浜、九九鳴き浜は、被災後、皆で再生に向けて保護・清掃等に尽力され、その後本年5月、見事、鳴き砂として日本の天然記念物へと国の文化審議会の答申が発出されたとお聞きします。まだまだ、大変な困難も多いと思いますが、一つずつ一つずつ、復興に向けて歩みが進められています。

京丹後市は、かつて日本のくにづくりの草創期、丹後王国が栄えていたといわれるほど、わが国日本のくにづくりが始まった、その発祥にかかわる土地。未来の繁栄を展望されスタートをするにはとても縁起がよい土地であると思っています。今日、そんな本市で結婚式を挙げられた3組のカップルの皆さんには、被災された状況の中でまだまだ困難も多いことかとも思いますが、ご家族・ご親族の皆さんの御愛情とともに、今日の成美大学の皆さん関係者の皆さんはじめ全国各地の皆さんのたくさんの真心にもお支えを受けられながら、何よりご夫婦のお心を改めてますます一つに永く育まれて、人生の素晴らしい喜びと幸福を一つ一つ築いて行ってほしいと心から祈念しています。また、3組の皆さんにはいろんな機会に本市を訪れていただきたいと願っておりますし、様々な面で気仙沼市、陸前高田市と本市の市民相互の友好のご縁がますます発展いたしますよう、心から念願しています。全ての皆さんに心からの感謝を捧げます。